

奥尻島の概要

- 人口:2,410人、高齢者比率:41.4%(令和2年国勢調査)
- 人口減少率:10.4%(平成27年→令和2年国勢調査)
- 島の面積:142.99km²
- 本土との航路距離:江差～奥尻61km、寄港回数:1～2便/日
- 豊かな水産資源と数々の自然の美しさを背景に、水産業と観光業が盛ん。兵庫県淡路市と姉妹都市提携を行なっている。

取組の特色など

- 学校名:北海道奥尻高等学校
- 生徒数:47名(うち、離島留学生31名) ※令和8年1月31日時点
- 受入開始時期:平成29年度～
- 学習環境等:
 - ①地域振興を研究できるプロジェクト
 - ②スクーバダイビングの資格取得、潜水士の資格取得に挑戦可能
 - ③生徒5人に対して教師1人の手厚い学習環境
 - ④進学から就職まで、第一希望の実現の実績のある評価の高い進路指導
 - ⑤大学や企業との連携により、積極的に町おこしについて考え、行動するプロジェクト
 - ⑥主体的に説明や発表、質疑応答する機会が多い授業
 - ⑦中心メンバーとして活躍できる部活動 など

取組の効果

生徒数や交流人口が増加することで、教育環境の充実や高校の活性化につながっている。例えば、スクーバダイビングの資格について希望者全員が取得している。また、島留学生が島内で生活することにより、島内経済の活性化にもつながっている。

奥尻島の位置図



学校生活の様子



離島留学生の寄宿舎



スクーバダイビング

取組にあたり工夫した点

- ・町立移管をきっかけに離島留学制度を開始した。町立移管することで教職員の人件費や施設の維持管理費、寄宿舎の整備にかかる財政面が課題であったが、離島活性化交付金やデジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)を活用することで財源を確保した。
- ・本交付金を活用し、寄宿舎を整備するとともに、生徒の帰省費用について年4回を上限に助成しているが、これにより生徒が帰省しやすい環境を整備することで、親元を離れて暮らす不安をやわらげ、精神的健康維持の一助となっている。